

時間割

※休憩時間は10分、昼休みは1時間(12:10~13:10)です。

【選択】 ⑩小学校理科学習における問題解決の力を育成する授業づくり 〈板橋キャンパス〉

月日	時限	時限	タイトル	概要	担当者	講座形式	認定方法	持ち物・連絡事項
8/18 (水)	1限	9:00~10:30	3年「磁石の性質」 3年「音の性質」	第3学年では、主に差異点・共通点を基に、問題を見いだすといった問題解決の力を育成を目指しています。複数の事象を比較し、その差異点・共通点を捉えることができる授業を展開することが大切です。自然の事象との関わりから学級の問題を設定する場面を中心に模擬授業を実際に行い、理科の授業づくりの手法を確認していきます。	関根正弘	実習	筆記試験	【持ち物】 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 理科編]
	2限	10:40~12:10	4年「電流の働き」 4年「季節と生物」	第4学年では、主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想するといった問題解決の力の育成を目指しています。自然の事象同士を関係付けたり、自然の事象と既習の内容や生活経験と関係付けたりする授業を展開することが大切です。個人で予想や仮説を考え学級で共有する場面を中心に模擬授業を実際に行い、理科の授業づくりの手法を確認していきます。				
	3限	13:10~14:40	5年「振り子の運動」 5年「流れる水の働きと土地の変化」	第5学年では、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想するといった問題解決の力の育成を目指しています。自然の事象に影響を与えると考える要因を予想し、どの要因が影響を与えるかを調べる際に、これらの条件を制御するといった考え方をを用いる授業を展開することが大切です。観察・実験の計画を構成する場面を中心に模擬授業を実際に行い、理科の授業づくりの手法を確認していきます。				
	4限	14:50~16:20	6年「水溶液の性質」 6年「電気の利用」	第6学年では、主により妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力の育成を目指しています。より妥当な考えをつくりだすとは、自分が既にもっている考えを検討し、より科学的なものに変容させることです。自然の事象を多面的に考えることができる授業を展開することが大切です。結果からの考察・結論を導き出す場面を中心に模擬授業を実際に行い、理科の授業づくりの手法を確認していきます。				

※認定方法は「筆記試験」「実技考査」「口頭試験」「その他(試験方法を明記)」のように履修認定は試験により行う。

※試験は本人確認ができる形態で行う。

*** 講習内容が変更になる場合もあります。ご了承ください。**